

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：13301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0080

研究課題名（和文）通貨から見る西アフリカ地域経済の分断と世界経済への統合：19・20世紀（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）The Regional Fragmentation of West Africa and the Integration into the World Economy from the Perspective of Money: the 19th and 20th Centuries(Fostering Joint International Research)

研究代表者

正木 響 (Masaki, Toyomu)

金沢大学・経済学経営学系・教授

研究者番号：30315527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,400,000円

渡航期間： 16ヶ月

研究成果の概要（和文）：西アフリカの通貨が、商品貨幣から植民地通貨、独立後の通貨へと移行する過程に焦点をあて、これが当該地域経済および経済アクターにどのような影響を与えたのかについて明らかにすることを試みた。

フランスのRouen-Normandie大学に6カ月間、イギリスのCambridge大学に計10カ月間受け入れていただき、フランス、イギリスのアーカイブ史料を閲覧、複写し、それを読み、論文にし、本研究費を用いて口頭発表を7回行った。また、その際に知り合った研究者の招待で、さらに2回の口頭発表（招待）を行う機会も持った。本研究の仕上げとして、旧英・葡領西アフリカの研究者を招いて、国際ワークショップを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、西アフリカで行われている通貨統合の試みは、宗主国によって分断された通貨制度を再統合させる作業ともいえる。しかし、計画から20年を経ても実現しておらず、本研究で、その歴史的背景を明らかにした。

CFAフランの制度は植民地主義的といわれるが、その形成過程を紐解くと、政策決定時に最適だと思われるものを選択してきた結果にすぎず、アフリカ側にもその選択を支持してきた人たちがおり、そう単純に批判できるものでもないことが明らかとなった。

商品貨幣から植民地貨幣への移行過程も、21世紀現在の人々が、紙幣と電子マネーを同時並行で使うといった貨幣選択行動とよく似ており、現代社会理解にもつながるはずである。

研究成果の概要（英文）： This research attempted to unveil the impacts of the transitions from the monetary spheres with commodity money to those with the colonial currencies on the economic agents and economy in West Africa.

For this purpose, I was appointed as a visiting scholar at the University of Rouen Normandy from September 2017 to February 2018 and at the University of Cambridge from March to September 2018 and from October to December 2019. During my stay abroad, I presented papers seven times at seminars or international conferences, which enabled me to strengthen my relationship with foreign scholars. These would certainly lead to further research collaboration.

As a wrap-up outcome, Professor Gareth Austin (University of Cambridge) and I organized an international workshop, Money in West Africa, at Clare Hall, the University of Cambridge, on 17 December 2019.

研究分野：経済史

キーワード：ギネ 貨幣 財政 西アフリカ 商品貨幣 植民地貨幣 子安貝 世界経済

### 1. 研究開始当初の背景

激動する国際金融市場構築過程を顧みる必要性から、近年、第二次世界大戦後の国際金融体制の変遷を歴史的に検証する動きが活発である。このうち、西アフリカは欧州の付属物として、国際金融体制に組み込まれた結果、地域の一体感を損ねながら、それぞれが宗主国の通貨・金融制度に巻き込まれる形で金融システムを形成することとなった。ただし、こうした周辺地域の金融史は日欧米のそれに比べてあまり関心が払われてこなかった。しかしながら、国際金融システム全体を理解するには、こうした周辺地域の金融システムへの目配りも必要なはずである。

本研究で焦点をあてている西アフリカは、現在、通貨統合の方法をめぐって大きく揺れ動いている。ECOWAS 加盟国 15 か国のうち、ギニアを除く旧仏領西アフリカ諸国と旧ポルトガル領のギニアビサウを含めた 8 カ国は通貨同盟 UMOA(経済同盟を含む場合は、UEMOA)を結成して、共通通貨 CFA フランを共有しており、その通貨価値は、フランスの通貨(現在はユーロ)に固定レートでペグされている。同様に、カーボ・ヴェルデの通貨エスクードも、ユーロに固定レートでペグされている。対して、それ以外の 6 カ国は国民通貨を発行しており、本研究開始時点の計画では、これら 6 カ国で、まずは第二通貨圏 WAMZ を形成し、その後 WAMZ と UMOA を統合して、ECOWAS レベルの通貨統合を行う予定であった。しかし、まずは WAMZ に入るはずの 6 カ国のマクロ経済指標が全く収斂する兆しをみせず、WAMZ の形成そのものが危ぶまれていた。つぎに、WAMZ そのものが実現しても、UMOA と統合する際に、どちらの制度にあわせるのか、もしくは、全く新しい制度を作るのかという大きな課題があった。

西アフリカの通貨統合は、文字通り、宗主国によって分断された通貨制度を再統合させるという作業になる。しかし、ヨーロッパの混乱をみてもわかるように、異なる制度の下で形成された貨幣・金融制度を一つにすることは言葉でいうほどには簡単ではない。

本研究では、旧仏領西アフリカの貨幣・金融制度形成に主に焦点をあてるが、CFA フランについては、毎年、新しい研究が次々出てくるのに対して、CFA フランが誕生する以前の金融制度については、Jacques Alibert(1983)、André Neurrisse(1987)、Michel Leduc(1965)、Yves Ekoué Amaïzo(2001)など、古典的なものが中心で、CFA フラン制度の肝である操作勘定についても、きちんと論じられたものはない。また、ECOWAS レベルでの通貨統合を考えるにあたり、英領・葡領の金融制度との比較検証も求められる。

### 2. 研究の目的

西アフリカの通貨が「自然貨幣 商品貨幣 植民地通貨 独立後に導入した通貨 地域共通通貨」へと移行する過程で、西アフリカが宗主国経済に統合されながら、他方で複数の宗主国によって地域経済が分断されたこと、そして独立後、再び、通貨が地域経済統合の手段へと変容していき、結果的に世界経済へ統合される過程を明らかにする。

旧仏領西アフリカの金融制度発展史をまとめる。

旧英領西アフリカの研究者と協力して、19 世紀後半から 20 世紀末までの旧英領西アフリカと旧仏領西アフリカの通貨・金融発展史を比較し、現在、試みられている西アフリカ全体の通貨統合の可能性とその意義(もしくは不可能性と問題点)を検証する。

### 3. 研究の方法

前項目の 商品貨幣については、ギネという綿布が貨幣としてどのように西アフリカで利用されていたのか、また、フランス商人や生産者が、ギネを西アフリカに持ち込み貨幣として利用す

る背景や過程について、フランスの国立公文書館およびルーアンの公文書館の史料をもちいて明らかにする。

上記の については、第二次世界大戦以降のフランスや欧米の金融史と照らし合わせながら、フランス銀行およびセネガルの BCEAO のアーカイブの史料、フランス財務省、国立公文書館等の史料を用いて検証する。また、ヨーロッパの研究者や銀行関係者と交流する機会を持つ。

一定期間、英国に滞在し、英国の研究者と交流しながら、英領西アフリカの貨幣・金融について学ぶ機会を持つ。

最終段階で、西アフリカの英・葡・仏領の貨幣・通貨研究者を招いて、それぞれの地域で商品貨幣から植民地貨幣へと移行する過程についてのワークショップを開催する。

上記の目的のために、以下の日程で下記の大学および研究者に受け入れていただき、ヨーロッパでの研究者との交流機会を持った。

- 2017年9月から2018年2月：フランス・ルーアン・ノルマンディ 大学 Olivier Feiertag 教授
- 2018年3月から2018年9月：英国・ケンブリッジ大学 Gareth Austin 教授
- 2019年10月から2019年12月：英国・ケンブリッジ大学 Gareth Austin 教授

#### 4．研究成果

ギネについては、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、フランスから北アフリカを経由して西アフリカにギネが輸出されていた事実、およびその歴史的背景について英語の論文にまとめ、発表する機会を得た。具体的には、2018年6月に、ケンブリッジ大学の Global Economic History Seminar にて、発表させていただいた。また、マンチェスターの市立公文書館やバーミンガム大学の図書館、そして British Library にて、関連文献の収集をおこない、完成した論文を英文査読ジャーナルに投稿した。また、このギネを19世紀後半に、フランス政府が貨幣として実際に流通させ、税支払いに用い、歳入として得たギネを歳出の一部に用いていた点についても明らかにした。つまり、フランスがセネガル銀行を通じて発行した通貨と、フランス政府が導入したギネという、発行体も形態も全く異なる2種類の貨幣が、セネガルという地域で同時に流通していたことが明らかとなった。このことは、商品通貨から植民地通貨への移行が、決して通貨レボリューションと呼ばれるような急進的な形でなされたわけではなく、また、「アフリカ人が商品貨幣を、ヨーロッパ人が植民地通貨を利用」といった、貨幣空間の分断がなされていたわけではないことの実例を提示することができた。これについては、2019年12月にケンブリッジ大学で開催したワークショップ Money in West Africa にて発表した。

旧仏領西アフリカの金融発展史については、時代をセネガル銀行(1857-1901)、西アフリカ銀行(1901-1955)、西アフリカ・トーゴ発券機関(1955-58)、BCEAO(1958-現在)の4段階に分けて研究をおこなっており、本研究では、セネガル銀行と、1955年に導入された操作勘定の研究に力をいれた。セネガル銀行については、一般的には、大株主であったボルドーに本拠を構える Maurel et Prom 社が、アフリカ商人の信用アクセスを阻むことによって、アフリカ商人の周縁化を招いたといわれているが、今回の調査で、こうした見方が完全に間違っているとは言わないまでも、それほど単純ではないことを示す事実がいくつかでてきた。これについても英語で論文をまとめて、英文ジャーナルに投稿する予定で準備をすすめている。セネガル銀行と19世紀後半のセネガル社会については、2019年6月に大阪大学および2020年1月にボローニャ大学で開催された国際ワークショップ(招待)と、パルセロナ大学で開催されたアフリカ経済史ネットワークにて発表し、

多くの方に関心をもってもらうことができた。

操作勘定については、UMOA の中央銀行である西アフリカ諸国中央銀行（BCEAO）の公文書館での史料アクセスが認められず、フランス銀行と財務省の公文書館および、セネガルとフランス国立公文書館の史料で調査をすすめている。しかし、ギネとセネガル銀行の調査・論文執筆に時間がとられ、まだ、細かい点が不明のままとなっている。また、金融のみならず、財政との関係も重要であることが判明し、これについて、2020年4月に採択となった科研費「フランスの植民地財政が旧仏領西アフリカの貨幣・金融制度形成に果たした役割の調査」にて継続調査をすることとなった。ただ、途中経過は、共同研究者である Feiertag 教授の紹介で、ポルトガル銀行で2017年11月に開催された Money in Africa の国際コンフェランスや、2018年2月にフランス銀行の歴史部会にて発表し、コメントをいただくことができた。

英領西アフリカとの比較検討については、英国・ケンブリッジ大学が頻繁に開催するセミナーに参加しながら、図書館で貴重書や19世紀の雑誌などを閲覧することを継続した。また、受け入れ研究者の Austin 教授より、ご自身が主催されているセミナー等で、様々な研究者を紹介していただいた。また、なかなか査読に通らない論文についても、細かくご指導をいただくことができた。

2019年12月17日に、ケンブリッジ大学にて、Money in West Africa :The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies を開催し、アフリカ、ヨーロッパ、日本から7名の研究者に論文を提出いただき、事前にそれらを全員が読んだ上で各論文について質疑応答・コメント・批評を行うという形のワークショップを開いた。コメンテーターおよび議長として、ボローニャ大学の Karin Pallaver 氏とキングズ・カレッジ・ロンドンの Toby Green 氏にも参加いただいた。また、ケンブリッジ大学の教員や学生にも参加いただき、研究交流の場とすることができた。残念ながら7名の発表者のうち、1名は急用で、当日、ケンブリッジまで来ることができなかったが、スカイプを通じて、発表・コメンテーターの役目を果たしていただけた。本ワークショップの内容については、日本から参加してくれた中尾世治氏（総合地球環境学研究所）が、日本アフリカ学会の学会誌『アフリカ研究』に、学界展望として寄稿してくれた。ワークショップの成果は、将来、出版する予定で共同研究者と話しをすすめている。

合計16カ月の海外出張を通じて、海外の研究者と交流を深めることができるとともに、グローバルスタンダードな研究方法、研究者とのネットワークの作り方、国際ワークショップの開き方、英文論文の書き方というものを、経験として身に着けることができたのが何よりも大きな成果であった。海外だからということでも身構える必要も、卑屈になる必要もないが、日本的な論文の書き方（情報の出し方）では、素材が優れていたとしても受け手にうまく伝わらないということも非常によくわかった。今後は、口頭発表の内容をさらにブラッシュアップして、英文ジャーナルに論文を発表していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中尾世治	4. 巻 97
2. 論文標題 「西アフリカにおける貨幣：商品から植民地通貨への転換についての経済・社会史」（The International Workshop on Money in West Africa: The Economic and Social History of the Transitions from Commodity to Colonial Currencies）参加報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 6件/うち国際学会 14件）

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Guinee cloth and Western Africa (1815-1929): A history of global stakeholders in the French colonial empire
3. 学会等名 Global Economic History Seminar, Faculty of History, University of Cambridge (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Credibility, Transaction Costs, and the Number of Monies in an Economic Sphere: A view of difficult transitions from multiple to a single currency in West Africa
3. 学会等名 World Economic History Congress Boston 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Olivier Feiertag
2. 発表標題 Central banking and economic development in West Africa (1973-1983)
3. 学会等名 World Economic History Congress Boston 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gareth Austin
2. 発表標題 'More and More One Cog in the World Economic Machine': Globalization, Development, and African Agency in British West Africa
3. 学会等名 World Economic History Congress Boston 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Compte d'operation and its effects on the economy of the l'Union Monetaire Ouest Africaine (UMOA)
3. 学会等名 Money in Africa, Banco de Portugal
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Why is money an issue in West Africa?
3. 学会等名 早稲田大学産業経営研究所講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 Let's talk about money in west Africa considering its relation with Asia
3. 学会等名 HESS Seminar Nouvelles territorialites entre l'Asie et l'Afrique (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toyomu MASAKI
2. 発表標題 La crebillite du franc CFA: Une histoire du compte d' operation
3. 学会等名 Seminaires de la Mission historique, Banque de France (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Olivier Feiertag
2. 発表標題 International History of the Franc zone in Africa (1939-1994) : Escaping the Mundell Trilemma?
3. 学会等名 早稲田大学産業経営研究所講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maria Eugenia Mata
2. 発表標題 Monetary Transition in Portuguese West Africa Presenter
3. 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toyomu Masaki
2. 発表標題 French struggles to make payments with cotton cloth in the territories of Upper Senegal in the 1880s
3. 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Seiji Nakao
2 . 発表標題 Marginality and Multiple-Currency in the Colonial Situation: Monetary Transition from the Cowry to the Franc in Upper Volta
3 . 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yasin Abubakar
2 . 発表標題 From Commodity to Colonial Currencies: A History of Money in the Former Sokoto Province of Nigeria during Pre-colonial and Colonial periods
3 . 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Bamidele Aly
2 . 発表標題 Resistance to Monetary Centralisation from the Colony of Lagos to Nigeria (1880-1920)
3 . 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Leigh Gardner
2 . 発表標題 Trade and Money in British West Africa, 1912-70: Evidence from Seasonal Cycles
3 . 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年



1. 発表者名 Gareth Austin
2. 発表標題 Transactions costs, merchants and states: the colonial currency transition in West Africa in long-term perspective.
3. 学会等名 Money in West Africa:The economic and social history of the transitions from commodity to colonial currencies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toyomu Masaki
2. 発表標題 How France made Senegal its colony:From an Aspect of the Financial System Established in the Nineteenth Century
3. 学会等名 The 14th, African Economic History Network (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toyomu Masaki
2. 発表標題 Spheres of money and payment systems in the colony of Senegal and its protectorates in the long nineteenth century
3. 学会等名 International Workshop "Monetary transitions in colonial Africa" (University of Bologna) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toyomu Masaki
2. 発表標題 The Bank of Senegal (1840' to 1901): The Background of the Establishment and its Impacts on the French Colonization over West Africa
3. 学会等名 Transnational money and the formation of economies and states in Africa, 1870s-1960s (Osaka University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計1件

1. 著者名 Tomoko Shiroyama	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 145
3. 書名 Modern Global Trade and the Asian Regional Economy (Ch.4 Toyomu MASAKI "The Export of Indian Guinee to Senegal via France: Inter-colonial Trade in the Long Nineteenth Century")	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

<p>正木響 Researchmap  <a href="https://researchmap.jp/read0063355/">https://researchmap.jp/read0063355/</a>          Researchmap(Japanese)  <a href="https://researchmap.jp/read0063355/?lang=japanese">https://researchmap.jp/read0063355/?lang=japanese</a>          Researchmap(English)  <a href="https://researchmap.jp/read0063355/?lang=english">https://researchmap.jp/read0063355/?lang=english</a>          正木響研究室  <a href="http://toyomumasaki.w3.kanazawa-u.ac.jp/">http://toyomumasaki.w3.kanazawa-u.ac.jp/</a>          Money in West Africa  <a href="https://sites.google.com/view/moneyinwestafrica/program">https://sites.google.com/view/moneyinwestafrica/program</a></p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	オースティン ギャレス  (Austin Gareth)	ケンブリッジ大学・Faculty of History・Professor	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	フェイエルタグ オリビエ  (Feiertag Oliver)	ルーアン・ノルマンディー大学・Faculty of History・Professor	